

1月27日生活科学科の課題研究発表会がありました。今回は密を避けるため教育研修所さくらホールをお借りし、保護者の方々

にお越しいただき、2・3年生はホールで、1年生はホールとは別の部屋でリモートによる参観形式での開催となりました。素晴らしい会場での発表に生徒たちも気持ちが入ったと思います。各班発表順に紹介と感想を少し書いてみたいと思います。

「チャレンジショップで地域をつなぐ～岩津ねぎの商品開発～」をテーマに取り組んだ食ビジネス選択班です。臨時休業中に試作を何度もしたと語ってくれたとおり依頼者の期待に応えるべくスイーツを制作。バックアップ企業が見つからず商品販売は1日限りとなりましたが、テレビにも取り上げられ岩津ねぎとレモンやリンゴ、ジンジャーのコンフィチュールは商品として販売されるめどが立ち、「生徒の本気を見た」と感じた企業が「企業の本気を見せる」という気合のこもった商品が販売されるそうです。(①②)

栄養選択者の発表は5班に分けられました。「学校給食献立作成研究事業～地産地消でつくる!冬に高める免疫力!～」では加東市給食センターのご協力のもと小中学校の給食の献立を考えることに取り組み、実際に調理して12月15日に食べてもらいました。感想も上々だったそうです。(③④)

「2年間の食育活動～英語を使って～」では、英語でのワークシートゲームを活用し、材料や月名を英語表現しながら楽しく食育を進めることに重点を置いて指導した結果、88%の児童の反応が良かったことでやりがいを感じたそうです。(⑤⑥)

「地産地消で美と健康」班は、さつまいもと山の芋にスポットを当てレシピを考案しました。山の芋は東条で70年の歴史があるそうです。作ったレシピはJAみのりの広報誌にパン編、おかず編、ドリンク編で掲載されました。地域とのつながりをとても感じたそうです。(⑦⑧)

「黒田庄和牛ミートソースの開発」班は、西脇出身者で固め、黒田庄和牛を牛舎見学等を含めてよく理解し、試作を重ね、製作者からの指導をいただき、協議を重ね商品としての最終段階に入ったようです。一つの商品を作り上げる過程において生産者含め多くの方々の協力の中で作られていることを実感できたそうです。(⑨⑩)

「地域への食育と食提案」班では加東みらいこども園において「食育だより」を発行し、スピード朝ごはんやスイーツを考案、紹介し、さらに全国高等学校農業クラブ研究発表大会で配布される弁当や東条川疏水10周年イベントや本校地方創生班企画のバスツアーでの弁当を考案するなど幅広く活動し、成果を得たという発表でした。(⑪⑫)



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



中身の濃い発表が続き、予定時間を若干オーバー。5分間の休憩ののち後半がスタートしました。

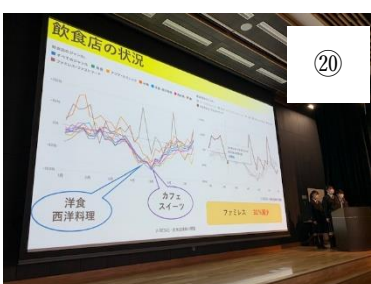


保育選択者による食育劇「フーズと女の子」では、保育班らしい優しい音楽を交え、食べることの大切さや栄養バランスについて小さい子供たちにも伝わるように簡単な内容でとても工夫された劇を披露してくれました。最後には歌にのせてまとめをするなどこのステージを最大限利用した劇の披露に大きな拍手が送られました。(13 14)



被服選択者による「洋服と和服について」はそれぞれの違いを理由を紹介しながら説明。さらには洋服、和服、食物調理の検定に臨んだ経過を説明。和服での大変な思いで忍耐力がついたという話で頑張りが伝わってきました。(15 16)

最後は、地方創生班の発表です。先日の3学科合同発表会でも発表されましたが、「360万人の観光客を加東市へ」というテーマを掲げた班は、宿泊型バスツアーを企画し、今回はターゲットを高齢者に設定。ツアー自体は大成功だったと思いますが、さらにコロナ禍でもできる広報の手段としてふるさと納税に着目。継続的な研究に言及しました。「A challenge in Kato〜もち麦で革命を〜」も地域の飲食店の状況を調べ、協力していただける店が少なく連携しづらい状況にあるものの今後も、もち麦を前面に押し出す継続的な研究を進めることで、PRが進み将来的な展望を図ることができると考えており後輩たちへ引き継ぎたい旨の発表がありました。(17 18 19 20)



発表の後には家庭クラブ会長の石田さんから生徒代表挨拶がありましたが、保護者、担当教員、関係企業等へのお礼を込めたとても良い挨拶をしてくださいました。今年1年実習や、イベント参加など本当に思い通りにならないことも多かったと思いますが、よくぞ諦めずにできることをやろうという思いで頑張ってくれたと思います。その成果は今日の発表で、保護者の皆様も感じる事ができたと思います。お疲れ様でした。

そして最後には担任の徳平先生から保護者に向けて生徒たちの今年1年の頑張りを伝える話がありました。目標も見失いどこまでの活動ができるかわからない中でも、家庭で試作品の製作をしたり、研究を継続したりできたのは保護者の協力なしではありえなかったことに対する感謝を伝え、その保護者への感謝の気持ちをもって生徒たちが最後まで前を向き続けて努力し、頑張ったことに対する称賛を言葉を選びながら伝えていただきました。保護者の皆様にもその思いは伝わったことと思います。会場を後にする際には、教育研修所の関係者の方が、「保護者がこれだけ静かに発表を聞かれているとは思いませんでしたし、1年生も違う部屋でのリモートでの発表を話もせず真剣に聞いている姿に驚きました」という感想を述べられました。その感想が物語るくらい立派な課題研究発表会だったと思います。お世話になった教育研修所の関係者の皆様ありがとうございました。そして来場いただいた保護者の皆様ありがとうございました。

発表を見た1・2年生は、気持ち新たに自分たちの活動を頑張ろうという気持ちになれたと思います。頑張っていきましょう。そして生活科学科の先生方、お世話になりました。

さて1月も終わります。緊急事態宣言下です。今一度意識を高め感染防止に努めていしましょう。よろしくお願いいたします。